

3.2.6 施設・設備

【評価項目 13-0-1】 施設・設備等の整備

- (必須要素) 大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
- (必須要素) 大学院専用の施設・設備の整備状況
- (選択要素) 大学院学生用実習室等の整備状況

【評価項目 13-0-2】 先端的な設備・装置

- (選択要素) 先端的な教育研究や基盤的研究への装備面の整備の適切性
- (選択要素) 先端的研究の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等との連携関係の適切性

【評価項目 13-0-8】 組織・管理体制

- (必須要素) 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況
- (必須要素) 実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立状況

<2003年度に設定した目標>

施設設備に関する目標設定については、大学のみで決定するのは不可能であり、財政見通しを踏まえた全学的意思決定が必要である。現在、「キャンパス総合開発検討委員会」においてキャンパスのランドデザインについて検討しているところである。

ことに社会学研究科では、大学院生の増加に伴い、大学院学生共同研究室、大学院優先教室の増設が緊急の課題である。

(現状の説明)

1. 施設・設備等の整備

社会学研究科は基礎となる学部の上に設置されており、施設・設備面においても学部の施設・設備と共用している。研究科独自の施設としては、大学院学生および研究員10名(2003年度)、14名(2004年度)に対して大学院教室2室および大学院院生室があるのみである。しかし、ここ数年で大学院学生数は倍近く増加している状況であり、大学院教室、大学院共同研究室、大学院控室等のスペースの増大が配置するなど、大学院専用の施設・設備の確保が必要である。

2. 先端的な設備・装置

21世紀COEプログラム「『人類の幸福に資する社会調査』の研究」については、学部棟内にCOE事務室および全学共用棟に2室のCOE共同研究室が配置されたが、共同研究室、COE研究員、リサーチアシスタント(併せて10数名)などの研究室は圧倒的に不足している。

(点検・評価の結果)

大学当局との折衝を重ね、上記の現状からの改善に努力しているものの改善にまではいたっていない。

(改善の具体的方策)

現在、キャンパス総合開発検討委員会のもとで新設学部構想の動向を見ながら、大学当局と今後の方向性について検討中である。